

「賀山豊彦のお宝発見」その3

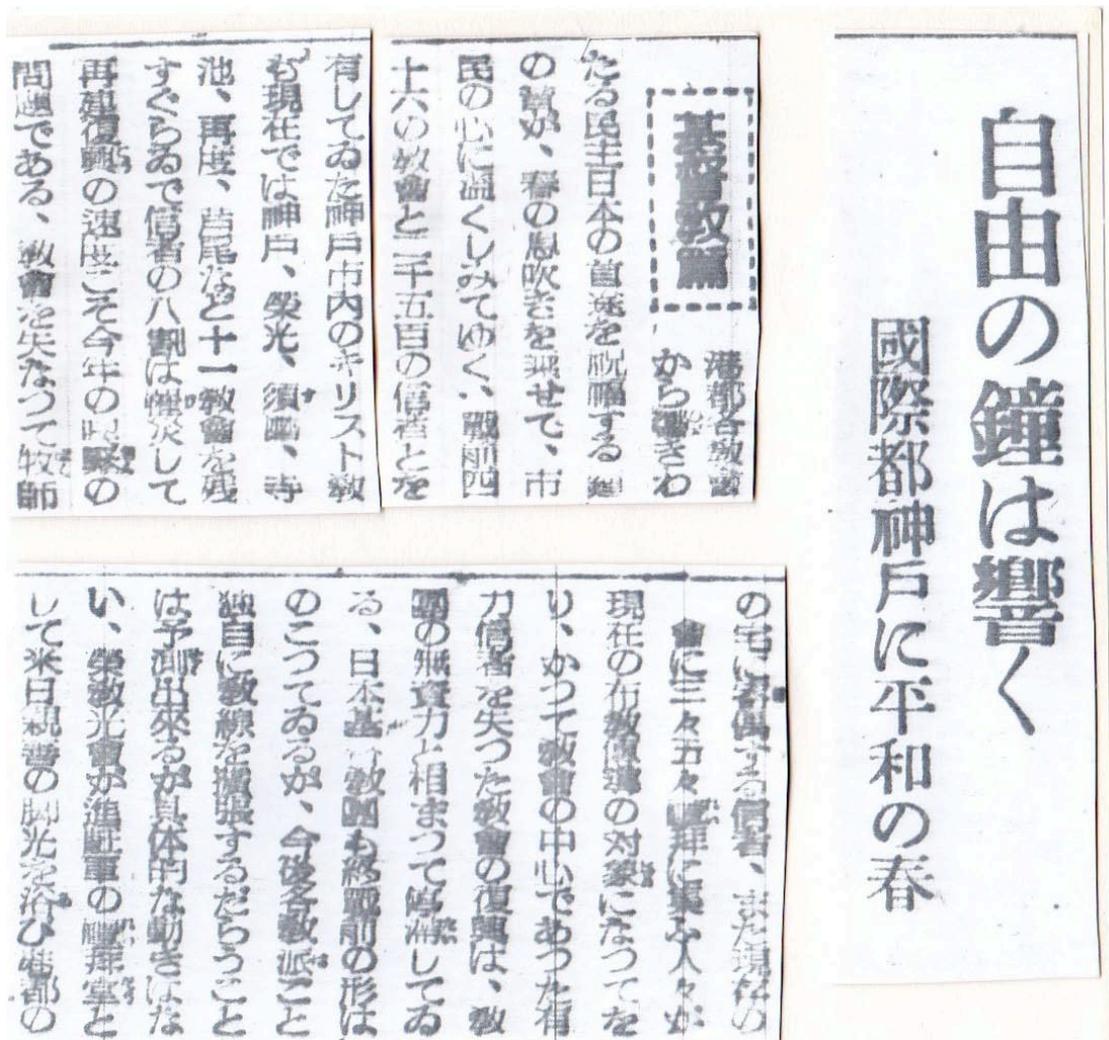
新聞記事にみる賀山豊彦 (33)

1910 (明治43) 年~1963 (昭和38) 年 (神戸版)

第33回 「神戸の基督教会」「社会的キリスト教」

「神戸の基督教会」

1946 (昭和21) 年2月24日「神戸新聞」



自由の鐘は響く

国際都神戸に平和の春

基督教篇

港都各教団から響きわたる

たる民主日本の首途を祝福する。春の息吹を運せて、市民の心に温くしめてゆく。戦前四十六の教会と二千五百の信者とを有してゐた神戸市内のキリスト教も現在では神戸、榮光、須磨、寺池、再度、皆尾など十一教会を残すべからず。信者の八割は被災して再建復興の速度こそ今年の眼撃の問題である。教會を失なつて牧師

の宅に寄寓する信者、また現在の會に三々五々集ふ人々が現在の布教陣の對象になつてをり、かつて教會の中心であつた有力信者を失つた教會の復興は、教團の無資力と相まつて停滯してゐる。日本基督教團も終戦前の形はのこつてゐるが、今後各教派ごとに独自の教線を擴張するだらうことは予測出来るが具体的な動きはない。榮光會が進駐軍の禮拜堂として米日親善の脚光を浴び、神戸の

活進をなすまいであるが、進駐軍と教員との交渉は牧師個人同志の語調交換程度で将来は外人宣教師が入りこみ外国資金で仕事をやることになれば、自ら世界的発展への橋口もつけられるわけで希望酌ではある

救世軍のその後は不明で基督青年會も會館復興に腐心しインテリ青年層の吸収を計畫してゐる神學方面では戰時中を通して人氣のあつたバルト神學も一變その轉換期的な役目を果した今日衰退することか想像され、アメリカ神學への関心が早晚昂揚することとなるであらう

神戸教會論 木牧師談

これまで自眼視されて来たキリスト教も

これからは近代アメリカン・チャーチの精神的基礎として、傳道的任務を持つて來ます、新澤申々いづも計畫的行事をやるのですが、設備もななく何ら設備的行事もできなないのが残念です、キリスト教を眞に國民に理解されるたのにも大都市に中心の教會を立つて展開したいと思ひます

自由の鐘は響く

国際都神戸に平和の春

基督教篇

港都各教会から響きわたる民主日本の首都を祝福する鐘の音が、春の息吹きを乗せて、市民の心に温くしみてゆく、戦前四十六の教会と二千五百のキリスト教も現在では神戸、栄光、須磨、寺池、再度、芦尾など十一教会を残すぐらいで信者の八割は罹災して再建復興の速度こそ今年の懸案の問題である、教会を失って牧師の宅に寄偶する信者、また現存の教会に三々五々礼拝に集ふ人々が現在の布教伝道の対象になっており、かつて教会の中心であった有力信者を失った教会の復興は、教団の無資力と相まって停滞している、日本基督教団も終戦前の形はのこっているが、今後各教派ごと独自に教線を拡張するだらうことは予測出来るが具体的な動きはない、栄光教会が進駐軍の礼拝堂として米日親善の脚光を浴び港都の話題をふりまいているが、進駐軍と教団との交渉は牧師個人同志の話題交換程度で将来は外人宣教師が入りこみ外国資金で仕事をやることになれば、自ら世界的発展への緒口もつけられるわけで希望的ではある。

救世軍のその後は不明で基督青年会も会館復興に腐心しインテリ青年層の吸収を計画している神学方面では戦時中を通して人気のあったバルト神学も一応その転換期的な役目を果たした今日衰退することが想像され、アメリカ神学への関心が早晚昂まることとなるであらう。

神戸教会鈴木牧師談

これまで白眼視されて来たキリスト教もこれからは近代デモクラシーの精神的基盤として、指導的任務を持って来ます、新年早々いつも計画的行事をやるのですが、設備もなく何ら宗教的行事もできないのが残念です、キリスト教を真に国民に理解されるためにも大都市に中心的教会をまづ復興したいと思ひます。

「社会的キリスト教の再建」

1946（昭和21）年2月1日「神戸新聞」

社会的キリスト教の再建

破壊から自由の叫び

政治的色彩も濃く活潑な動き

社会的キリスト教全國聯盟は今次の米日大戦へ突入してまもなく昭和十七年二月、例の特
別警察の押込で文字通り壊滅してゐたが、ふたたび高らかに揚る自由の鐘にまつてかつて
の中歐的指導者らにより再建へ着手し、このほど神戸船員會館で結成式を舉行、三月には
再建後初めての全國聯盟を開催することになつた

山元治郎、河上丈太郎、片山哲
諸氏の支持によつてゐた社會的
キリスト教は、極めて革新的な社會
主義を内蔵してゐたために戰爭前
から警察當局の運動をうけ中央委
員をつた関西學院の中島重教授は
同志社大學の教壇を追はれるなど
多くの派生的事件を生んでゐた
つひに昭和十七年二月最後の
壊滅的運動をうけたのだつた、當
時中央委員だつた神戸愛隣館長三
浦清一氏は七ヶ月、竹内愛二氏は
三ヶ月と長期に亘り留置された
が、結局不法運動なるが故に無罪
釈放といふ醜態さへ演じたものだ
つた、さらした不法運動のために

戰爭中は全く望みの形で支任を失
ひバラク／＼だつたが、今度の民主
運動の波に乗つて再建され、三浦
氏をはじめ樋口晴夫（神戸女學院
教授）金田弘義、太下角一諸氏が
中央委員となり竹内氏が仮委員長
となつて西宮市岡田山竹内方に全
國聯盟本部を設けたのである、三
十日には東京の新興キリスト教か
ら合同の加入がありやうやく活
躍なる社會的活躍が行はれようと
してゐるが、この社會キリスト教
の綱領は戰爭中の三項目のほか
われらは地上における神の國美
現は世界聯盟の建設を前提とし
てのみ可能なるを信じ平和的

段による國際問題の解決および
各國民相互の協同による世界平
和の維持増進に努力せんことを
明す
の一項目を加へ從來のキリスト教運動が
主だつた表面的の色彩を捨て神會
主義的キリスト教運動を建前とし
てをり、天皇制問題については支
持的態度をとつてゐるが、社會運
動の當面の問題の土地、食糧、住
宅の諸問題もとり上げて政治的色
彩も濃ゆくする点なども注目を惹
いてゐる

社会的キリスト教の再建

破壊から自由の叫び

政治的色彩も濃く活発な動き

社会的キリスト教全国連盟は今次の米日大戦へ突入してまもなく昭和十七年二月、例の特高警察の弾圧で文字通り壊滅していたが、ふたたび高らかに鳴る自由の鐘によってかつての中堅的指導者らにより再建へ着手し、このほど神戸船員会館で結成式を挙行、三月には再建後初めての全国連盟を開催することになった。

杉山元治郎、河上丈太郎、片山哲諸氏らの支持によっていた社会的キリスト教は極めて革新的な社会主義を内蔵していたために戦争前から警察当局の弾圧をうけ中央委員だった関西学院の中島薫教授は同志社大学の教壇を追はれるなど多くの派生的事件を生んでいたが、ついに昭和十七年二月最後の壊滅的弾圧をうけたのだった、当時中央委員だった神戸愛隣館長三浦清一氏は七ヶ月、竹内愛二氏は三ヶ月と長期に亘り留置されたが、結局不法弾圧なるが故に無罪釈放といふ醜態さへ演じたものだった、さうした不法弾圧のために戦争中は全く窒息の形で支柱を失ひバラバラだったが、今度の民主運動の波に乗って再建され、三浦氏をはじめ溝口靖夫（神戸女学院教授）金田弘義、大下角一諸氏が中央委員となり竹内氏が仮委員長となって西宮市岡田山竹内方に全国連盟本部を設けたのである、三十日には東京の新興キリスト教から合同の申入れがありやうやく活発なる社会的活躍が行はれようとしているが、この社会キリスト教の綱領は戦争中の三項目のほか

われらは地上における神の国実現は世界連盟の建設を前提としてのみ可能なるを信じ平和的手段による国際問題のおよび各国民相互の協同による世界平和の維持増進に努力せんことを期す。

の一項目を加へ従来の宗教運動が主だった表面的の色彩を捨て神会主義的キリスト教運動を建前としてをり、天皇制問題については支持的態度をとっているが、社会運動の当面の問題の土地、食糧、住宅の諸問題もとり上げて政治的色彩も濃ゆくするなど注目も惹いている。